

# 山部会 9年間の取り組みと成果

## ①取り組み

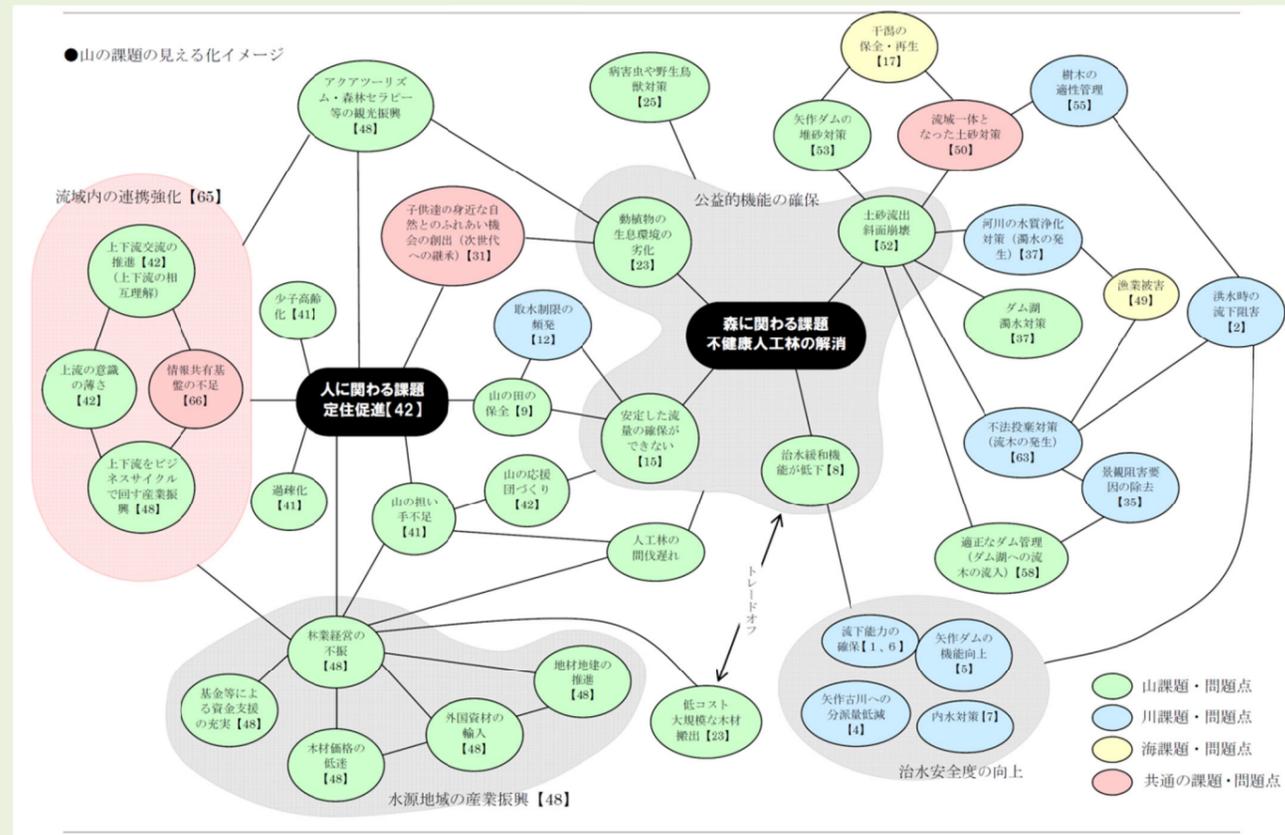
平成22年度

- 第1回地域部会の結果、山部会では「人に関わる課題」「森（人工林）に関わる課題」を当面3ヶ年の取り組みに決定
- 治水、利水、環境、地域活性化の各分野のキーワードについて、2つの課題との対応に関する意見交換
- 市民会議における山の課題抽出
- 勉強会の実施（「山の現状を知る見学会」）
- 学識者ヒアリングによる意見聴取
- 課題のマインドマップ作成
- 山の課題の見える化の整理（下図）

平成23年度

- 課題抽出・整理の流れの検討
- 山部会における意見を踏まえた出発点の共有のための整理
- 懇談会員の山川海の理解を深めるため、懇談会を立て直すための勉強会（山・川・海を巡るバスツアー）を実施

優先的に取り組む課題の抽出と検討



当初整理案

当初案の肉付け

出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有		
当面の課題1 誰がやるか(人の問題)	当面の課題2 何をやるか(森の問題)	
高度経済成長	人の都市への流出 兼業化、公共事業依存	拡大造林(広葉樹からヒノキ、スギへ転換) 木材自給率低下、価格下落
現代	過疎化、高齢化 若者の仕事がない	植生遷移、水量減少(水消費型森林) 放置人工林からの土砂流出・崩壊 立木価値ゼロ以下
近未来 (放っておくとどうなるか)	集落放棄 公務員のみ居住 縦割り公共事業 悪の民間業者の巣窟	公益と調和しない林業(皆伐再造林放棄) 不適切な林道・作業道・搬出路
望ましい未来像	農山村の経済的自立 若者の仕事がある 善の民間業者の再生	人工林間伐推進 土砂流出の適正化 「木材生産林」「洪水緩和林」「節水型森林」の3区分
課題	山村の崩壊	矢作川流域圏森林管理ガイドライン未策定 データ不足、研究の遅れ
解決手法	山村再生ガイドライン策定 上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興	ガイドライン策定 モデル林の設定(土砂を流す森、節水型森林など)とモニタリング

出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有		
当面の課題1 誰がやるか(人と地域の問題)	当面の課題2 何をやるか(森の問題)	
<b>高度経済成長</b> ■ 旺盛な都市開発に伴う兼業化と公共事業依存(拡大) ■ 人の都市への流出 ■ 森林行政が政策としての「若い手確保」を怠る(密)	<b>拡大造林(広葉樹からヒノキ、スギへ転換)の増加</b> ■ 木材需要対抗のための木材輸入の増加 ■ 高度経済成長の終焉と木材自給率・木材価格の下落 ■ 縦割り公共事業による木材需要の低下が、自動車の普及による木材需要の低下につながった。 ■ 所有者の森林管理に対する意識が低下	
<b>現代</b> ■ 若者の仕事がない ■ 過疎化、高齢化の進行 ■ 集落放棄により山村単独での経済的自立が困難 ■ 公務員または公務員に近接して生きている方々のみが居住(②) ■ 縦割り公共事業	<b>立木の価値ゼロ以下</b> ■ 公益と調和しない林業(皆伐再造林放棄)による森林機能の喪失 ■ 不適切な林道・作業道・搬出路の設置による森林環境の悪化 ■ 人工林間伐推進による森林機能の回復 ■ 土砂流出の適正化	
<b>近未来 (放っておくとどうなるか)</b> ■ 集落放棄により山村単独での経済的自立が困難 ■ 公務員または公務員に近接して生きている方々のみが居住(②) ■ 縦割り公共事業	<b>公益と調和しない林業(皆伐再造林放棄)による森林機能の喪失</b> ■ 不適切な林道・作業道・搬出路の設置による森林環境の悪化 ■ 人工林間伐推進による森林機能の回復 ■ 土砂流出の適正化	
<b>望ましい未来像</b> ■ 経済的に自立した農山村(山村の経済的自立) ■ 若者の仕事がある(山村活性化を通じた雇用の創出) ■ 善の民間業者の再生	<b>「木材生産林」「洪水緩和林」「節水型森林」の区分による優れた環境をもつ森林形成</b> ■ 人工林間伐推進による森林機能の回復 ■ 土砂流出の適正化	
<b>望ましい未来像の実現に向けた課題と解決手法</b> ■ 山村の崩壊から山村の再生への転換 ■ 山村再生につながる森林管理を含めた担い手などの「人づくり」が必要 ■ 山村再生に資する経済サイクル確立のための「仕組みづくり」が必要	<b>公益と調和した食づくりの実現</b> ■ 流域で統一性のあるガイドラインが必要(矢作川流域圏森林管理ガイドライン未策定)(④) ■ データ不足、研究の遅れによる科学的根拠と実践できない山と川の関係(③) <b>「持続可能な山村再生ガイドライン」の策定(⑤、⑥)</b> ■ 「持続可能な山村再生ガイドライン」の策定(⑤、⑥) <b>「木材生産林」「洪水緩和林」「節水型森林」の区分による優れた環境をもつ森林形成</b> ■ 人工林間伐推進による森林機能の回復 ■ 土砂流出の適正化	

次ページの「山部会の出発点の共有」(平成24年5月)

出発点「矢作川の恵みで生きる」の共有

検討の進め方

山村をとりまく  
社会背景の変遷と  
望ましい将来像

STEP1

過去と現在を  
知る

理解と情報共有を  
促進する

右に記載した事項について、具体的に「知る」機会を設け、情報共有を図る  
→ 市民企画会議  
→ 勉強会で対応

実現に向けた  
課題と解決手法

STEP2

未来像実現に向けた  
課題と解決手法を  
考える

情報共有を踏まえ、まず「人の問題」をテーマに解決手法を検討

→ 市民会議  
→ 地域部会で対応

STEP3

できることから  
活動を  
実践する

人と山村

森林

高度経済成長前から後へ

現代

近未来  
(放っておくとどうなるか)

望ましい  
未来像

- 自給的経済、自立、自治、誇りがあった。
- 百業をやっていた。
- 若者が中下流の都市へ流出した。
- 拡大造林によって広大な人工林が形成され、長期間管理し続ける必要があったが、その担い手がなくなった。
- 山村における若者の就業機会が乏しい。就業できても定着できない。
- 現代では、山村は過疎化、少子化、高齢化、核家族化が進行している。
- 限界集落、消滅する集落が増えていく。残された集落でも山村単独での自治や経済的な自立が困難となり、コミュニティが崩壊する。
- 国、県、市町村ごと、部局ごとに目指す森林の姿がバラバラで、流域圏一体となった森林管理が行われていない。
- 流域圏にとって望ましい山村のあり方は、収入は多くなくても安定した若者の仕事があり、山村の資源を持続可能なやり方で利用しつつ、経済的に自立すること。
- 自然の恵みを利用できる知恵のある人が定住していること。

- 薪炭林施業が行われていた。
- 最上流域や額田地区ではスギ、ヒノキ人工林施業が行われていた。
- 藤岡・小原・旧豊田・岡崎にはハゲ山も多かった。
- もともと林業地だったところでも、そうでないところでも、もうかるというもくろみと国策により、拡大造林（広葉樹からヒノキ、スギへ転換）を推進した。
- 国産材を流通させる仕組みが輸入木材に比べて整わず、国産材の価格が低下し、林業が業として成り立たなくなった。
- もともと林業地でなかった地域では、多くの所有者が素人山主で林業を知らない。
- 管理が行き届かないため過密化した水消費型森林や放置人工林からの土砂流出・崩壊の危険性が増加している。
- 林業は利益を確保せざるを得ないことから、森林皆伐後の再生林の放棄が起こり、森林の水土保持機能が喪失する。
- 不適切な林道・作業道・搬出路が作られ、放置され、土砂が流出し、崩壊の危険性が高まる。
- 流域圏にとって望ましい森林は、自然の力で持続する生態系と人による持続的な維持管理下に置かれる生態系が最適に配置され、多様な生物が生息し、木材や水などの恵みを中下流にもたらししてくれる森林。
- 木材生産を主目的として管理する森林と、水土保持機能の発揮を主目的として管理する森林を区分し、木材生産に適さない人工林を天然林に戻していく。

実現のための課題と解決手法

森林の適切な管理は、まず山村の再生(担い手作り)から！

当面の課題1 誰がやるか(人と地域の問題)

- 課題** ●現金収入、仕事、医療、教育など、出発点に到達する以前の問題が山積。
- 解決手法(例)** ●既に自発的に始まっている優れた取組を集めた「山村再生担い手づくり事例集」の策定やエターンした若者のミーティングを通じ、山村再生の担い手作りを支援する具体的な方策を検討する。
- 上下流をビジネスサイクルでつなぐ産業振興(流域フェアトレード)の推進(中下流都市中心部での上流生産物販売拠点の設置など)
- 役割分担** 市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となって推進していく。

山村再生のために  
先ず“人づくり”が必要  
そのうえで“森づくり”にも  
取り組む必要がある。

担い手づくり事例集イメージ

- 山村再生担い手づくり事例集
- 成功事例1
- 成功事例2
- 失敗事例1
- .....

当面の課題2 何をやるか(森の問題)

- 課題** ●流域圏として統一性のある森林管理を行い、矢作川の森の恵みが中下流や海までいきとどくためのガイドラインが必要。
- データ不足・研究の遅れによって、「植林こそが正しい」といった誤解を正すことが必要。
- 解決手法(例)** ●「矢作川流域圏の森づくり・木づかいガイドライン」の策定
- モデル林の設定とモニタリング  
→ガイドラインの検証のため、土砂を流す森、節水型森林の手本を作る。
- 役割分担** 市民・学識経験者・行政が、対等な立場で、一体となってガイドラインを策定し、モデル林を設計、施業、研究し、モニタリングを行っていく。

行政・学識経験者・市民が対等な立場で、一体となって策定

①取り組み

	テーマ	解決手法	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人と山村	流域圏山村再生担 い手づくり事例集	森林の適切な管理は山村再生が重要。先ずは人づくりに取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>山村再生担い手づくり事例集の対象の検討（農林業の担い手）</li> <li>作成手法の検討</li> <li>主担当者の決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査先、調査者の決定、調査方法に関する意見交換</li> <li>調査マニュアルの策定</li> <li>調査スケジュールの決定</li> <li>山村再生担い手づくり事例集Ⅰの発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>川部会、海部会との連携検討</li> <li>事例集メーリングリスト立ち上げ</li> <li>取材スケジュールの検討</li> <li>山村再生担い手づくり事例集Ⅱの発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取材の対象を文化的な担い手にも拡大</li> <li>過去3ヶ年の取材先活動拠点の位置図を作成</li> <li>山村再生担い手づくり事例集Ⅲの発行</li> <li>事例集マップの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山村再生担い手づくり事例集 その後いかがお過ごしですか？プロジェクトの発行</li> <li>事例集交流会の開催計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例集交流会の開催（根羽）</li> <li>川部会との協働</li> <li>取材対象の拡大に伴う「山村再生」から「流域圏」への名称変更</li> <li>流域圏担い手づくり事例集Ⅰの発行</li> <li>事例集交流会の開催計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例集交流会の開催（佐久島）</li> <li>川部会との協働</li> <li>流域圏担い手づくり事例集Ⅱの発行</li> <li>事例集マップ更新</li> </ul>
	山村ミーティング	山村再生を支援する取り組みへの参加・情報共有を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>若者ミーティング（1ターンなど）を矢作川流域山村ミーティングに改称</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上矢作における山村ミーティングの試行（林業1ターン同士の交流）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>串原農林と根羽村森林組合の意見交換（若者どうし）に関する情報共有</li> <li>森林組合の若手（岡森フォレストアースを含む）の交流検討</li> <li>流域フェアトレードの概念の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道中川町の第2回こりまつりの周知と矢作川流域で展開する場合の課題の整理</li> <li>きこり祭に代わるイベントの検討</li> <li>他のテーマとの連携模索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの準備</li> <li>矢作川感謝祭（仮称）の流域圏恒例行事化に向けた検討</li> <li>廃止された足助もみじまつりに代わるイベントの模索</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの始動</li> <li>矢作川感謝祭への流域圏懇談会としての参加（実行委員として参加）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>矢作川流域林業担い手100人ヒヤリングの進捗報告、山林管理のアンケートの実施・分析（岡崎森林組合組合員）</li> <li>矢作川感謝祭への参画、流域の全ての森林組合の参加、東幡豆漁協の参加</li> </ul>
森林	森づくりガイドライン	流域圏として統一性のある森林管理を行うためのガイドラインを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>森づくりガイドライン作成手法の検討</li> <li>主担当者の決定</li> <li>森づくりの指針の検討（旧宮崎村の森づくりのあゆみ、市民の森づくりへの参加・森林水文学の市民講座開催）</li> <li>流域地方自治体の取り組みの周知（岡崎市水循環プラン・岡崎市森林整備ビジョン、豊田市・豊田森林組合の森づくり）</li> <li>東京都水道水源林の管理に関する情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流域を構成する3県に対する森づくりガイドライン策定趣旨説明</li> <li>関係行政機関の参加</li> <li>関係行政機関が参加する森づくりWGの開催</li> <li>現況図、地区別森林基礎データの情報収取及び整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政や市民と協働した森づくりに関するデータ収集</li> <li>矢作川の特徴的な森づくりについてのカタログ化の方針周知</li> <li>森の健康診断10年間の振り返り周知（本テーマにも関連する）</li> <li>流域地方自治体の取り組み周知（岡崎市の森づくり、森林環境税の導入をめざす他府県の目的（使い途）の共有</li> <li>広島土砂災害から考える矢作川流域の課題の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国の水循環基本法の制定について情報共有</li> <li>流域地方自治体の取り組み周知（豊田市の森づくり構想の見直し計画、岡崎市の水循環推進協議会の役割）</li> <li>近自然森づくりの周知と導入検討</li> <li>流域市村の間伐面積の推移の周知</li> <li>流域内での生態系サービスの考え方と活用検討</li> <li>広島土砂災害の要因検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>流域地方自治体の取り組み周知（豊田市の森づくり構想の見直し計画、岡崎市の水循環に創造プランのうちの水量に関する施策の進捗報告、大阪府の森林環境税の使い途）</li> <li>森づくりガイドラインの策定に向けた素案検討</li> <li>森林環境税に関する国の方針の周知</li> <li>九州北部豪雨の現地視察結果の周知（森林管理）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊田市森林課の初代課長の故原田裕保氏の実績について情報共有</li> <li>国からの森林譲与税に対する各地方自治体の対応方針についての情報共有</li> <li>国の新たな森林管理システム、森林づくりガイドブック発刊に関する情報共有</li> <li>流域地方自治体の取り組み周知（新・豊田市100年の森づくり構想、岡崎市の水循環協議会の実績）</li> <li>流域市村の間伐面積の推移の周知</li> </ul>	
	木づかいガイドライン	矢作川の森の恵みが中下流・海まで届くガイドラインを作る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>木づかいガイドライン作成手法の検討</li> <li>主担当者の決定</li> <li>大蔵建設大蔵氏より、伊那谷の森（木）で家をつくる取り組みの紹介</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドラインのターゲットのためのプレーストリーミングの実施</li> <li>ライフステージ別に整理されたアタック表の活用</li> <li>ガイドライン作成に向けたパートナーの決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成方針にある市民目線の重要性の認識、懇談会員の推薦によるパートナーの決定</li> <li>ガイドライン作成方針の共有（「さあ~しよう」のフォーマット作成）</li> <li>スギダラ矢作川支部設立に向けた意見交換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木のある暮らしのアイテムの検討（動く木のおもちゃ）</li> <li>木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績周知</li> <li>プレイスメイキングの効果検討</li> <li>流域ものさしの活用検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木づかいガイドライン策定に向けた目標と項目周知</li> <li>木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績周知</li> <li>奥矢作森林フェスティバルへの参加</li> <li>第6回全体会議における「流域ものさし」の配布と私の流域物語の周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木づかいガイドライン策定に向けた取材先等の検討</li> <li>放棄竹林の利用検討</li> <li>木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績周知</li> <li>労働参加型プレイスメイキングの実績周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>木づかいガイドライン策定に向けた進捗状況の周知</li> <li>木づかいライブ・スギダラキャラバンの実績報告</li> <li>流域の森林組合の協働に関する情報共有</li> </ul>
テーマ外の討議事項			<ul style="list-style-type: none"> <li>山部会懇談会スタイルの検討（回数、開催場所、宿泊の有無）</li> <li>川部会、海部会との連携手法の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員を選出による座長、副座長の決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民企画会議で議論された3つのテーマの周知 ①ごみ・流木 ②土砂 ③木づかい</li> <li>日本全国スギダラクラブとのディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>矢作川流域圏に特徴的な森林と巨樹・並木の抽出及び流域マップの作成</li> <li>小学生による源流から河口までの自転車走破の周知及びイベントへの展開検討</li> <li>海部会との合同部会の開催</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>フィールドワーク位置図の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>山川海の合同部会の開催</li> </ul>
フィールドワーク			<ul style="list-style-type: none"> <li>【根羽】グリーンハウス森沢、モデル住宅ほか</li> <li>【恵那】上矢作、串原の森づくり・林業</li> <li>【岡崎】中部猟友会、優良施業林業地</li> <li>【豊田】あいちの森と緑づくり事業地（間伐地）、加塩地域、あさひ製材協同組合、豊田森林組合木材センターほか</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>【根羽】木の家、木の駅プロジェクト</li> <li>【恵那】福寿の里モンゴル村</li> <li>【豊田】トヨタ自動車テストコース、森林組合新庁舎の</li> <li>【岡崎】宮崎財産区、巴山・分水嶺、長坂100年長伐期林、ミツマタ長伐期林</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【恵那】結の炭家ほか</li> <li>【豊田】森の健康診断報告会</li> <li>【岡崎】切山の杉、乙川上流域（毛呂川、西風橋）、千万町町地内の人工林</li> <li>【西尾】とんぼろ干潟</li> <li>【流域圏外】近自然森づくりの荒山林業への視察、根羽杉を利用した家族風呂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【根羽】明治用水水源かん養保安林、恵那豪雨における沢抜け箇所その後</li> <li>【豊田】足助きこり塾の森づくりと活用、あさひ森の健康診断報告会</li> <li>【岡崎】ウッドデザインパーク、間伐材利用コンクール</li> <li>【流域圏外】神奈川県山北町の森林環境税を活用した環境保全の実態把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【根羽】信州大学研究フィールド、帯状間伐の実施状況</li> <li>【恵那】木の駅・薪の駅の視察、茅の宿とみだ</li> <li>【豊田】ちんちゃん亭（農地山林利用）、あさひ森の健康診断報告会</li> <li>【岡崎】ぬかた体験村</li> <li>【流域圏外】長野県飯田市の天竜川における竹林管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【根羽】水源の森（茶臼山山麓）山地酪農</li> <li>【豊田】神殿の森づくり会議の管轄エリア（下山地区）</li> <li>【岡崎】みかわエコ薪・貯木場、おかざき森の健康診断報告会</li> </ul>

②成果（第10回山部会まとめの会 意見集約）

課題	テーマ	できたこと	もう少しでできたこと	できなかったこと
人と山村	流域圏担い手づくり事例集	107 団体への取材を行い、6 冊の事例集を発刊 取材者と取材団体のつながり、取材団体同士のつながりの構築（例：串原林業と ClearWaterProject） 担い手の活動からの刺激、未来の可能性の把握 流域の担い手の新発見（例：根羽村天下杉） イベントを通じた事例集の拡散 学校教育の現場における事例集の活用（例：人間環境大学の農業体験に活用）	地域再生の起爆剤としての役割 大学生の取材への参加	
	山村ミーティング	流域林業担い手 100 人ヒヤリングの遂行（林業従事者の現状の把握） 矢作川感謝祭の開催と参加（主催者・出展者両面） 全国的な林業に関するイベントの抽出と情報共有（北海道中川町のきこり祭等）	きこり祭の開催  他部会とのコミュニケーション・出発点の共有 流域住民への発信	国の省庁の参加・県市村の前向きな参画 河川整備計画と森づくりの関係の検討 山川海の経済的つながりの共有 流域内のものでその違いに対する理解 山川海の連携の創出 流域すべての自治体の参加
森林	森づくりガイドライン	森づくりに関する国、地方自治体の動きの共有 木の駅プロジェクトの流域全体への拡大（全国的なモデル） 流域地方自治体の間伐面積の可視化 荒山林業への視察による近自然森づくりの導入検討 自治体による水道水源モニタリングの実施（豊田市） 自然災害と森づくりの関係の情報共有 低コスト林業 流域マップ（矢作川流域圏に特徴的な森林と巨樹・並木）の市民レベルでの活用 「根羽」「恵那」「豊田」「岡崎」の地域持ち回りのWGによる現状把握	源流域生態系の広域評価	「土砂を流す森」モデル林の設定 自然生態系と人間管理生態系の最適配置についての検討
	木づかいガイドライン	森林組合同士のつながりの創出 奥矢作森林フェスティバル・矢作川感謝祭・三河湾大感謝祭・アンフォーレ市民フェス（安城）・あそべるとよたプロジェクトへの出店（木づかい推進） 下流部の情報誌（例：耕 Life）を利用した上流域の活動周知	流域内の人材育成システム	
その他		流域内の主な森林・巨木の抽出と可視化（流域マップ） 大学生の学びの場の提供 小学生の上流から河口までの自転車を使った旅の周知とツールとしての可能性検討		市民への流域バスツアー、サイクリングの試行